

令和8年度

全国学力・学習状況調査

結果と分析について

藤沢市教育委員会



1 調査の概要と目的

令和8年4月20日（月）～5月29日（金）にかけて、令和8年度全国学力・学習状況調査が、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されました。この調査は、これまでの教育活動や教育施策の成果と課題等を把握・検証し、今後の教育活動に生かすことを目的としています。

なお、本調査で測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることが、国の調査実施要領で示されています。

2 実施状況

(1) 調査内容

ア 児童生徒に対する調査

- ・教科に関する調査（小学校：国語、算数、中学校：国語、数学及び英語）
- ・生活習慣や学習環境等に関する質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）

イ 学校に対する質問調査

- ・学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

(2) 実施校数 小学校 35校 中学校 19校

(3) 実施人数（単位：人）

	国語	算数・数学	英語（聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと）	質問調査
小学校6年生	3,672	3,671		3,635
中学校3年生	3,220	3,217	3,073	3,209

3 平均正答率一覧表

(1) 藤沢市立小学校平均正答率（単位：％）

	国語	算数
全国（公立）	61	56
神奈川県（公立）	61	58
藤沢市（公立）	61	59

(2) 藤沢市立中学校平均正答率（単位：％）

	国語	数学	英語（聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと） （平均IRTスコア）
全国（公立）	64	57	499
神奈川県（公立）	65	59	524
藤沢市（公立）	66	62	539

※ 全国平均正答率は、国から提供されたデータの小数点第一位を四捨五入した数値である。

※ 「IRT」とは、正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論のこと。

※ 「平均IRTスコア」とは、IRTに基づいて500を基準にした得点で表すもの。

※ 令和8年度全国学力・学習状況調査報告書（文部科学省 国立教育政策研究所）では、「都道府県別の平均正答率等・スコアについては、ばらつきの状況は狭い範囲内に収まっている」と記載されている。

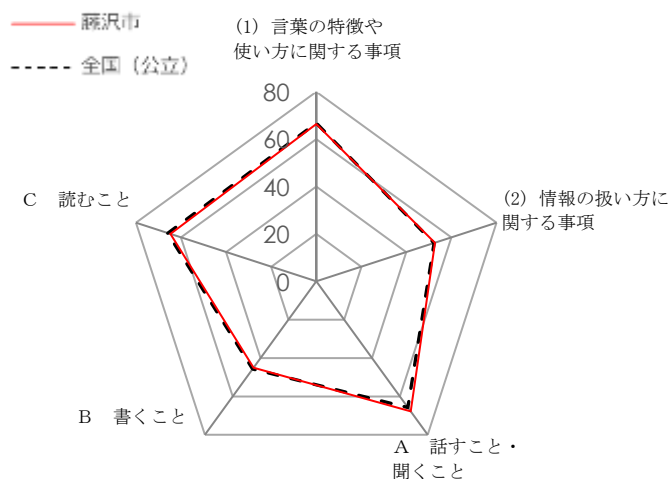
※ 平均正答率は、平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）である。

4 教科に関する調査結果の分析＜小学校 国語＞

①学習指導要領の分類別平均正答率（単位：％）

分類	学習指導要領の観点					
	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		
	(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文 化に関する事項	A 話すこと・ 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
全国	66.8	52.3		65.8	45.7	65.9
藤沢市	66.4	52.7		67.8	45.0	64.7
設問数	4	2	0	3	2	2

※数値は正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率



②設問ごとに見られた結果（○：概ね理解していると思われる点 ◇：課題とみられる点）

※本市の正答率、無回答率、全国の平均正答率との差に着目して取り上げています。

○目的に応じて、必要な情報を見付けることはできている。＜A話すこと・聞くこと＞

◇文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことに課題がある。＜B書くこと＞

③質問調査より

（単位：％）

	質問項目	藤沢市	全国
学習に対する 興味関心や授 業の理解度等	国語の勉強は好きですか	59.5	57.4
	国語の授業の内容はよく分かりますか	83.2	81.5
	国語の学習で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.9	90.4
	5年生までにうけた授業では、国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていましたか。	81.8	80.7

④課題に対する指導改善の手立て（参考：文部科学省 国立教育政策研究所「令和8年度全国学力・学習状況調査報告書」【速報版】）

＜書くこと＞ 文章を引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くこと

改善に向けては、原文に正確に引用することや、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にし、区別して書くことが大切です。例えば、自分の考えが伝わるように引用して書いている文章と、引用して書いていない文章を読み比べるなどの方法が考えられます。

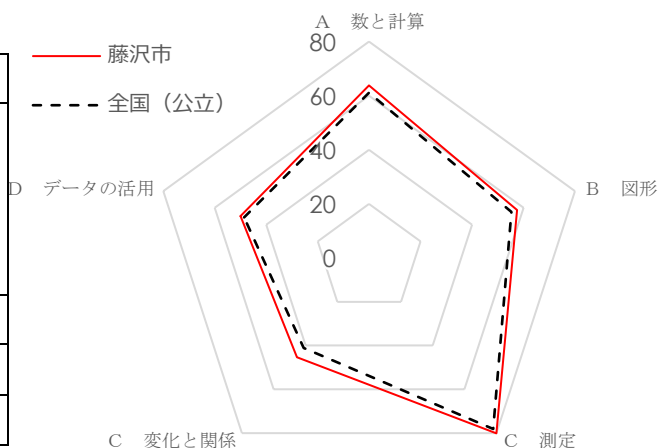
質問調査からは、「文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いている。」と捉えている児童が多いことから、児童の取組を価値づけしながら、文章のどの記述から、なぜそう考えたのかという主張と根拠の結びつきを意識させる指導が効果的です。

4 教科に関する調査結果の分析＜小学校 算数＞

①学習指導要領の分類別平均正答率（単位：％）

分類	学習指導要領の領域				
	A 数と計算	B 図形	C 想定	C 変化と関係	D データの活用
全国	61.1	55.3	78.1	41.1	48.6
藤沢市	63.8	57.5	80.1	45.3	50.0
設問数	8	4	1	3	4

※数値は正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率



②設問ごとに見られた結果（○：概ね理解していると思われる点 ◇：課題とみられる点）

※本市の正答率、無回答率、全国の平均正答率との差に着目して取り上げています。

○基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことはできている。＜A数と計算 C変化と関係＞

◇示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述することに課題がある。＜Dデータの活用＞

③質問調査より

（単位：％）

	質問項目	藤沢市	全国
学習に対する興味 関心や授業の理解 度等	算数の勉強は好きですか	60.6	57.6
	算数の授業の内容はよく分かりますか	77.9	77.5
	算数の学習で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.8	91.0
	算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか	59.5	63.0

④課題に対する指導改善の手立て（参考：文部科学省 国立教育政策研究所「令和8年度全国学力・学習状況調査報告書」【速報版】）

＜データの活用＞ 示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述すること

改善に向けては、表やグラフを読み取って特徴や傾向を把握する前に正しく集計できているか確認し、誤りの有無の根拠を、表やグラフ、集めた資料の数を基に説明できるようにすることが大切です。その際、表の合計欄の意味に注目し、二つの表の合計の数値を比較し、誤りがないかどうかを確かめることができるようにするなどの工夫が考えられます。

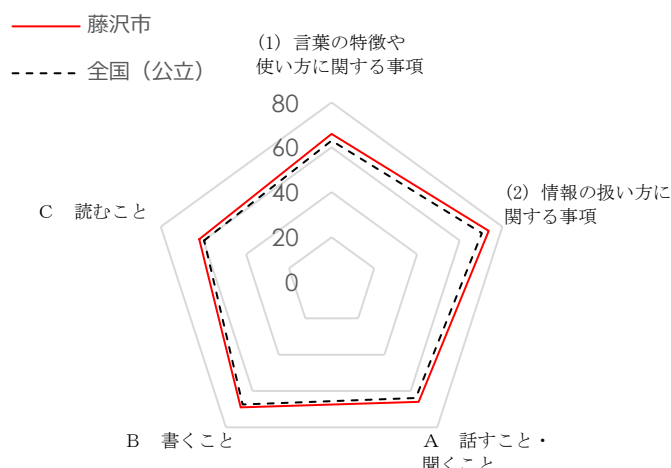
質問調査からは、「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか」という質問に対して、肯定的に回答した児童が全国より少ない結果となりました。学習過程の中で、問題に対して自分の考えをもつ時間を設定することをはじめ、解決方法に着目し、分かったことや理由についてもペアやグループで話し合うことが効果的です。

4 教科に関する調査結果の分析＜中学校 国語＞

①学習指導要領の分類別平均正答率（単位：％）

分類	学習指導要領の観点					
	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		
	(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化 に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
全国	63.0	70.4		63.9	67.4	59.7
藤沢市	66.0	73.6		65.9	69.0	62.0
設問数	5	1	0	3	3	3

※数値は正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率



②設問ごとに見られた結果（○：概ね理解していると思われる点 ◇：課題とみられる点）

※本市の正答率、無回答率、全国の平均正答率との差に着目して取り上げています。

○表現の効果を考えて描写することはできている。＜B書くこと＞

◇文章を読んで理解したことに基づいて、他者に説明するために自分の考えを確かなものにするに課題がある。＜C読むこと＞

③質問調査より

（単位：％）

質問項目	藤沢市	全国
学習に対する興味関心や授業の理解度等		
国語の勉強は好きですか	52.3	57.2
国語の授業の内容は分かりますか	75.0	76.8
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	85.4	88.2
国語の授業で、文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出していましたか	77.3	76.1

④課題に対する指導改善の手立て（参考：文部科学省 国立教育政策研究所「令和8年度全国学力・学習状況調査報告書」【速報版】）

＜読むこと＞ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなもの
にすること

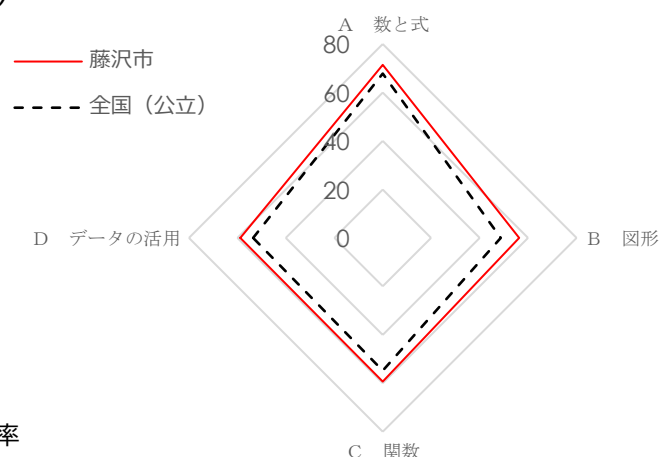
文章を読んで自分の考えを確かなものにするためには、生徒自身が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返られるような活動が考えられます。その際、文章に書かれている内容について自分の考えを述べることにとどまるのではなく、自分がその文章の内容についてどのように把握したり解釈したりしたかを十分に踏まえ、それを常に確かめながら考えを形成していくことが大切です。

生徒質問調査によると、「学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っている」と肯定的に回答した生徒が多いことから、単にまとめるだけでなく、文章を読んで理解したことを他者に説明したり、自分の考えやその根拠などを把握したりすることが重要です。

4 教科に関する調査結果の分析＜中学校 数学＞

①学習指導要領の分類別平均正答率（単位：％）

分類	学習指導要領の領域			
	A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用
全国	67.8	48.7	54.8	53.5
藤沢市	71.4	56.3	59.3	58.8
設問数	5	4	3	4



※数値は正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率

②設問ごとに見られた結果（○：概ね理解していると思われる点 ◇：課題とみられる点）

※本市の正答率、無回答率、全国の平均正答率との差に着目して取り上げています。

○具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることは比較的できている。＜B 図形＞

◇数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。＜C 関数＞

③質問調査より

（単位：％）

	質問項目	藤沢市	全国
学習に対する興味 関心や授業の理解 度等	数学の勉強は好きですか	58.8	56.1
	数学の授業の内容はよく分かりますか	75.8	74.2
	数学の学習で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	70.9	76.5
	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていましたか	57.3	63.0

④課題に対する指導改善の手立て（参考：文部科学省 国立教育政策研究所「令和8年度全国学力・学習状況調査報告書」【速報版】）

＜関数＞ 数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること

改善に向けては、日常の事象や社会の事象における問題において、その事象を理想化・単純化して関数関係を見だし解決したり、問題解決の過程や結果を振り返り、評価・改善したりできるように指導することが大切です。その際、伴って変わる二つの数量に着目し、関数関係を捉え説明できるような機会を設けるといった工夫が考えられます。

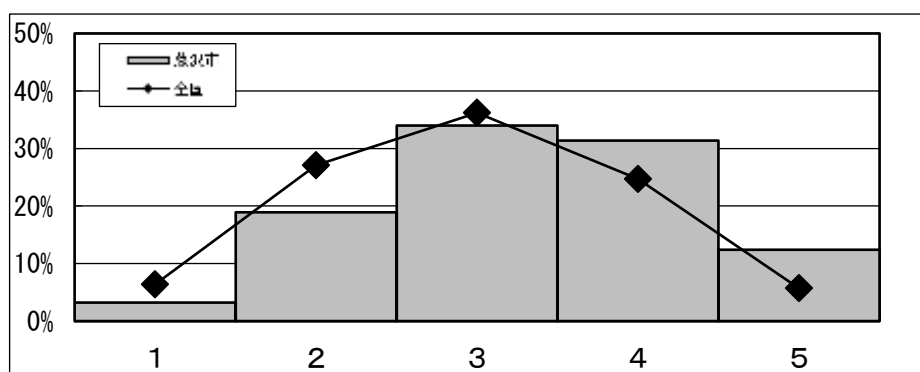
質問調査からは、「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていましたか」という質問に対して、肯定的に答えた生徒が国と比べて少ない結果となりました。そのため、数学の学習において、日常の事象や社会の事象から関数関係に着目し、問題を解決する活動を通して、身近な疑問について、グループで立式やデータの読み取りを行わせたり、今日学んだ内容は生活のどんな場面で応用できそうかを考えさせたりすることで、主体的に社会や生活に活かす数学の力を育む指導も効果的です。

4 教科に関する調査結果の分析＜中学校 英語 4 技能＞

① I R Tスコア集計値

	平均 I R T スコア
全国	499
藤沢市	539
設問数	9

② I R Tバンド分布グラフ（横軸：I R Tバンド 縦軸：割合）



※「I R T」とは「項目反応理論」といい、一人ひとりの問題の正誤状況を活用し、調査に取り組んだ人の学力を測定する方法。

※「平均I R Tスコア」とは、I R Tに基づいて500を基準にした得点で表すもの。

※「I R Tバンド」とは、今回の調査における結果を5段階で示したもので、5が最も高い。例えば、I R Tバンド「3」は、「問題の難易度」が「3」の問題を、おおそ（約80%の確率で）正答することができると推定できる。

②設問ごとに見られた結果（○：概ね理解していると思われる点 ◇：課題とみられる点）

※本市の正答率、無回答率、全国の平均正答率との差に着目して取り上げています。

- 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことはできている。＜書くこと＞
- ◇ 日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることに課題がある。＜聞くこと＞

③質問調査より

（単位：％）

	質問項目	藤沢市	全国
学習に対する興味	英語の勉強は好きですか	52.6	51.2
	英語の授業の内容はよく分かりますか	68.8	64.2
関心や授業の理解度等	英語の学習で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.6	87.6
	聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていますか	86.3	85.1

④課題に対する指導改善の手立て（参考：文部科学省 国立教育政策研究所「令和8年度全国学力・学習状況調査報告書」【速報版】）

＜聞くこと＞ 日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えるようにすること

話を聞いて、概要を捉えるためには、時間的な場面の移り変わりを順番通りに捉えることや、特定の部分にのみとられることなく、話の最初から最後まで通して聞くことが重要です。その際、はじめは2つの出来事の順番を捉え、徐々に3つ以上を順番通りに捉えさせたり、音声スクリプトを読み、手がかりとなる語句や表現に着目して聞くように指導したりすることが考えられます。

質問調査からは、「英語の勉強が好きですか」という質問に対し、肯定的に回答した現在の中学校3年生の割合が、小学校6年生の時の回答結果68.0％より約15ポイント減少しています。小学校から中学校へスムーズな接続が行われるよう、例えば、中学校学区における小中相互の授業参観、CAN-DO リストや教材・指導計画等の共有などを通し、学習内容の円滑な接続を意識して取り組むことが効果的です。

5 児童生徒質問調査に関する調査結果（抜粋）

※時間数や頻度等を問う設問以外は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した比率を合計した数値

（単位：％）

	質問項目		小学校		中学校	
			藤沢市	全国	藤沢市	全国
基本的 生活習慣等	朝食を毎日食べているか		94.4	93.3	92.4	90.9
	平日にどのくらいの時間 スマートフォン等で SNS や動画視聴等をするか (学習利用を除く)	3 時間以上	31.9	37.6	49.5	49.6
		1 ～ 3 時間より少ない	42.1	40.9	41.3	42.2
		1 時間より少ない	20.2	16.7	8.2	7.0
		持っていない	5.6	4.5	0.8	1.0
挑戦心、 自己有用感、 幸福感等	自分には、よいところがあるか		87.8	85.6	81.7	84.0
	先生はよいところを認めてくれると思うか		90.4	91.4	87.4	90.9
	人が困っているときは進んで助けるか		92.7	92.7	89.8	90.8
	人の役に立つ人間になりたいと思うか		95.5	95.8	95.3	95.9
学習習慣 学習環境等	自分で学び方を考え工夫できていると思うか		78.2	79.4	76.4	78.2
	平日に学校以外で一日どの くらいの時間 勉強をするか	2 時間以上	28.7	21.6	45.5	30.1
		1 ～ 2 時間より少ない	22.8	28.3	25.9	31.5
		30 分～ 1 時間より少ない	25.0	29.1	14.1	19.5
		30 分より少ないか全くしない	22.5	20.2	14.1	18.4
	昼休みや放課後に、学校図書館に行くか	週 1 回以上	11.3	17.6	5.1	7.8
		月 1 ～ 3 回程度	12.8	17.3	5.9	10.4
		年数回程度	15.8	13.4	9.4	11.6
		ほとんど行かない・全く行かない	59.4	51.0	79.2	69.8
地域や社会に関わる活動	地域や社会をよくするため何かしてみたいと思うか		79.9	80.1	69.4	72.3
ICT を活用した 学習状況	授業でコンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用したか		ほぼ毎日	25.4	43.0	57.3
			週 3 回以上	29.7	25.8	24.2
			週 1 回以上	30.0	19.1	14.7
			月 1 回以上	11.1	8.1	2.7
	ICT 機器の活用について	文章を作成する(文字・コメントを書くなど)ことができる	81.3	79.1	87.1	84.8
		情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができる	69.7	69.5	67.1	69.4
		発表のスライドを作成することができる	73.7	74.6	80.8	80.0
主体的・対話的で深い学びの 視点からの授業改善	自分の考えを発表する機会では、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したか		72.4	66.4	78.2	65.5
	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか		79.1	77.6	80.7	78.8
	級友との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができたか		85.0	85.7	85.3	87.0
総合的な 学習の時間・ 学級活動・ 道徳	総合的な学習の時間では、課題を立て、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか		74.3	79.9	79.6	80.8
	学級活動では、学級をよりよくするために話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか		75.5	81.5	82.5	84.5
	道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動をしているか		87.3	86.9	92.7	91.3

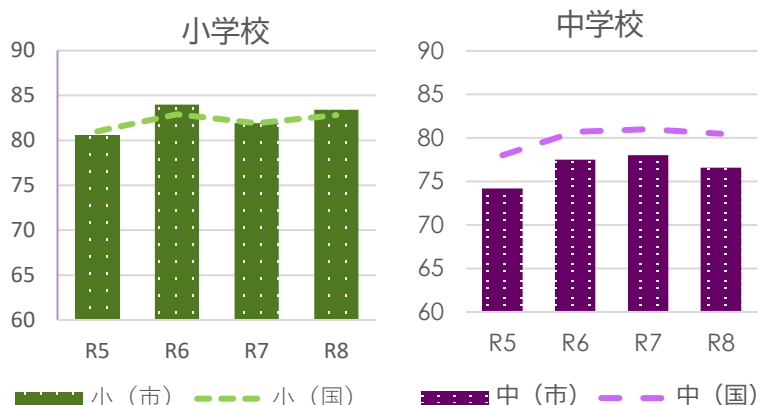
6 児童生徒質問調査結果の特徴と考察

※時間数を問う設問や平均正答率以外は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した比率を合計した数値（単位：%）
参考：国立教育政策研究所「令和8年度 全国学力・学習状況調査報告書」

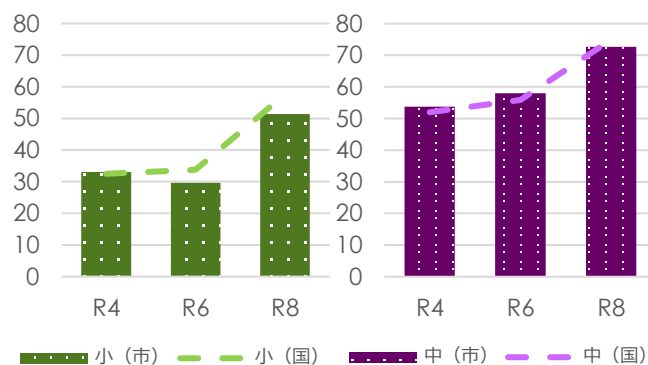
基本的生活習慣等について

<ふじさわビジョン：自己の知>

質問「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」



※平日、1日当たり2時間以上スマートフォン等でSNSや動画視聴をする児童生徒の割合



特徴

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ていると回答した割合は、中学校においては全国より低い。
- ・平日に2時間以上スマートフォン等でSNSや動画を視聴する児童生徒は、小中学校ともに増加傾向にある。

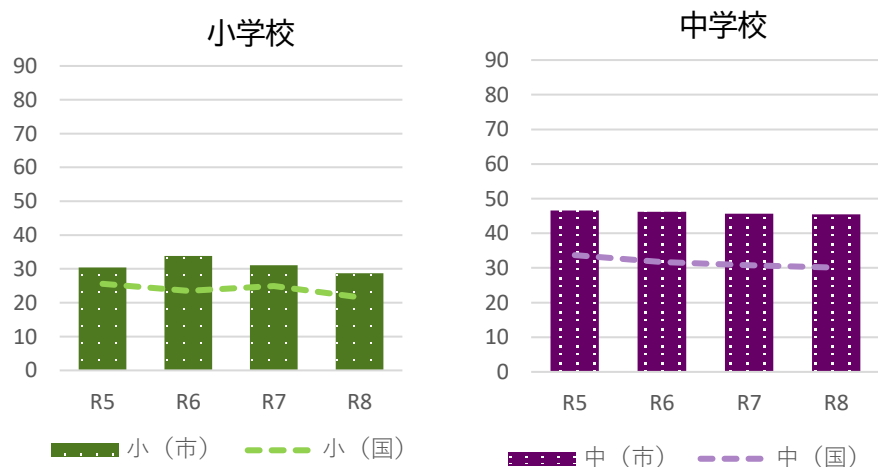
考察

- ・中学生では、塾や習い事等により就寝時間が一定にならないことが考えられる。

学習習慣について

<ふじさわビジョン：自己の知>

質問「平日に、学校以外で一日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか（学習塾等を含む）」
（2時間以上の割合）



特徴

- ・平日2時間以上勉強していると回答した割合は、小学校においても中学校においても藤沢市は全国より高い。
- ・小中学校で比較すると、中学校の割合が高い。
- ・学校の授業時間以外における児童生徒の勉強時間は、小中学校ともに、やや減少傾向にある。

考察

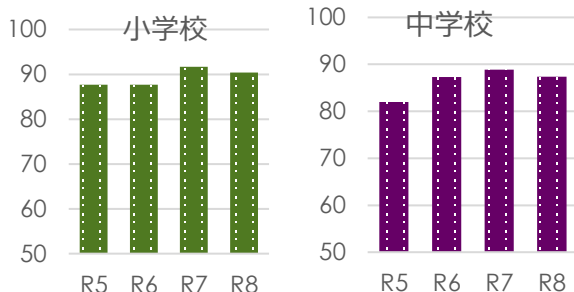
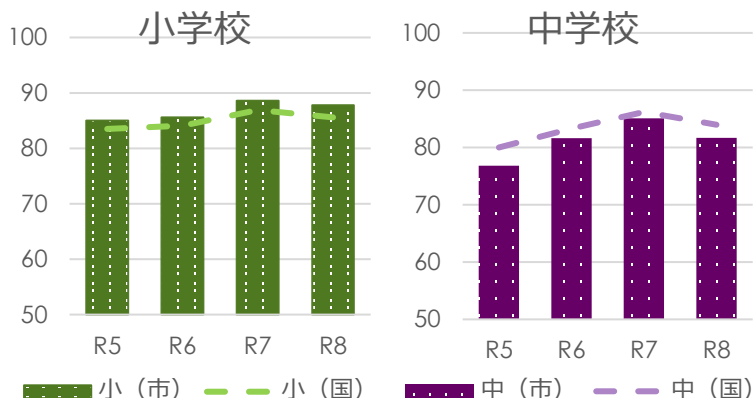
- ・中学校の平日の学習習慣については、調査対象が中学3年生ということもあり、学習への意識が高まっていると考えられる。

自己有用感について

<ふじさわビジョン：自己の知>

質問「自分には、よいところがあると思いますか」

※「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」（「あてはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合）



特徴

- ・小学校ではおよそ9割、中学校ではおよそ8割の児童生徒が、「自分にはよいところがある」と思っている。
- ・「自分には、よいところがある」と回答している児童生徒の割合は、小学校の方が中学校より高い。

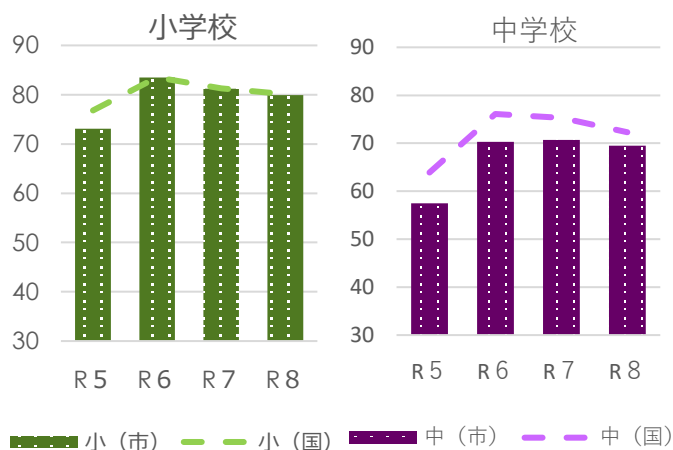
考察

- ・子どもの自己肯定感については「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒が約9割いることから、教員の声かけが関わっているものと思われる。

地域社会について

<ふじさわビジョン：かかわりの知>

質問「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」



特徴

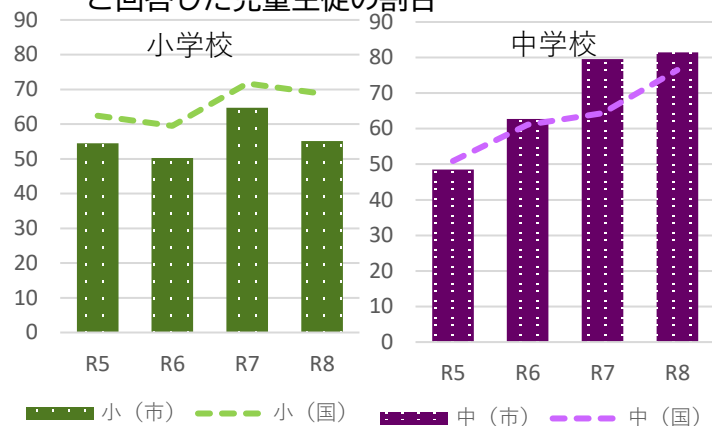
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では約8割、中学校では約7割となっている。
- ・現在の中学校3年生は、小学校6年生の時と比べると若干減少している。

考察

- ・現行の学習指導要領で掲げる「社会に開かれた教育課程」を踏まえ、各学校、教科の授業や総合的な学習の時間で地域社会とのつながりを意識した取組が行われていると考えられる。

ICT の活用について

【質問】「授業でコンピュータなどのICT機器をどの程度使用したか」の質問に、「週3回以上」と回答した児童生徒の割合



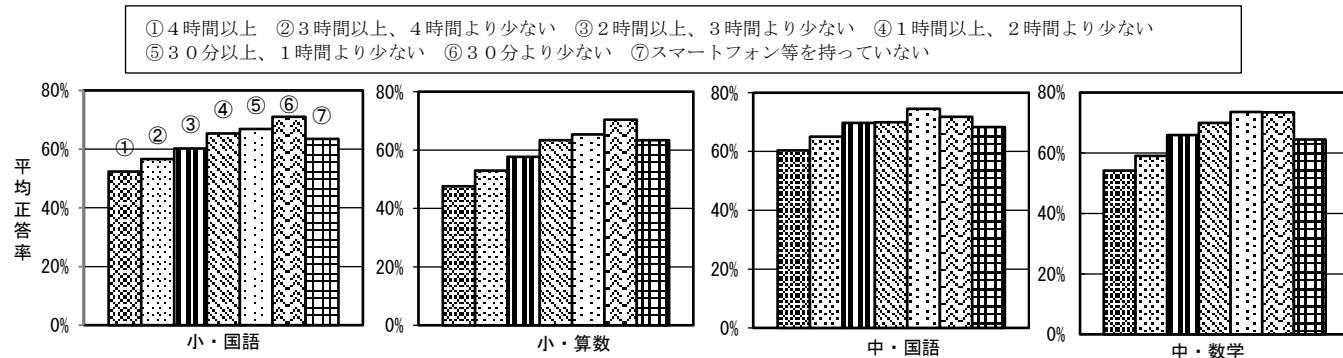
特徴

- ・中学校では、令和7年度から約8割の生徒が「授業でコンピュータなどのICT機器を週3回以上使用する」と回答しており、ICTの活用については「文章を作成することができる」に肯定的な回答をした児童生徒の割合が、小中学校ともに8割以上である。

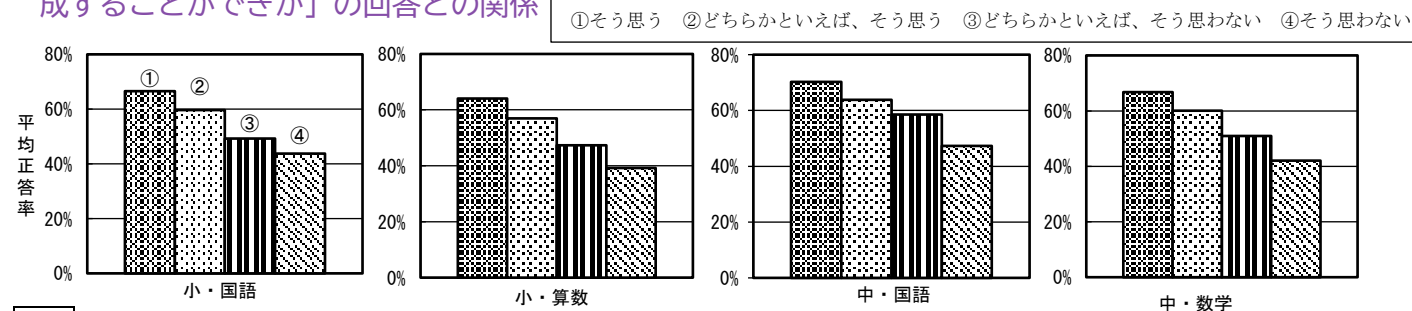
考察

- ・PCやタブレットを使って、文章を作成したり、プレゼンテーションを作成したりする技能は、ある程度習得されていると考えられる。
- ・各学校において、ICT機器を利用して文章やプレゼンテーションを作成する場面を、意図的に設けていることが考えられる。

※国語、算数・数学(小・中学校)の平均正答率と、「平日、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話等でSNSや動画視聴などをするか」の回答との関係



※国語、算数・数学(小・中学校)の平均正答率と、「自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができるか」の回答との関係



特徴

- ・SNSや動画視聴等の利用時間が長い児童生徒ほど、各教科の正答率が低い傾向が見られる。
- ・ICTを活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られる。

考察

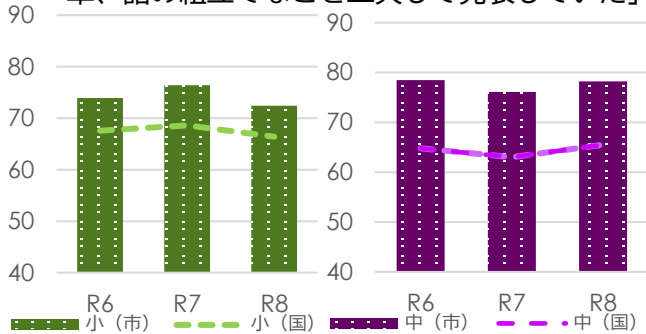
- ・ICTを受動的に利用するにとどまらず、主体的・能動的に活用できるよう、授業等を通じた情報活用能力を育成することが、学力向上に寄与する可能性が考えられる。

主体的・対話的で深い学びについて

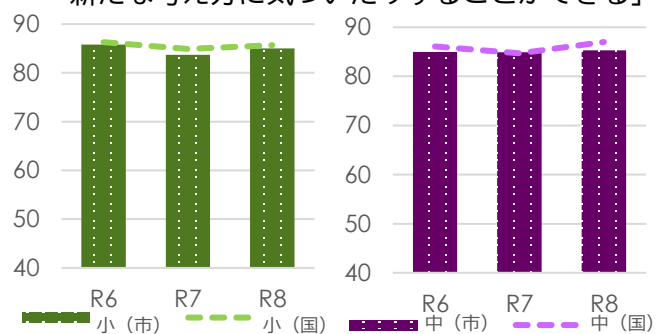
<ふじさわビジョン「かかわりの知」>

<5年生までに受けた授業、中学校1、2年生のときに受けた授業に関する質問>

質問「自分の考えを発表する機会では、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」



質問「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができる」



特徴

- ・小中学校とも、工夫して発表したと回答した児童生徒の割合が全国に比べて高い。
- ・令和7年度から、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができる」と回答した児童生徒の割合は、小学校では1.3ポイント、中学校では0.4ポイント増加している。

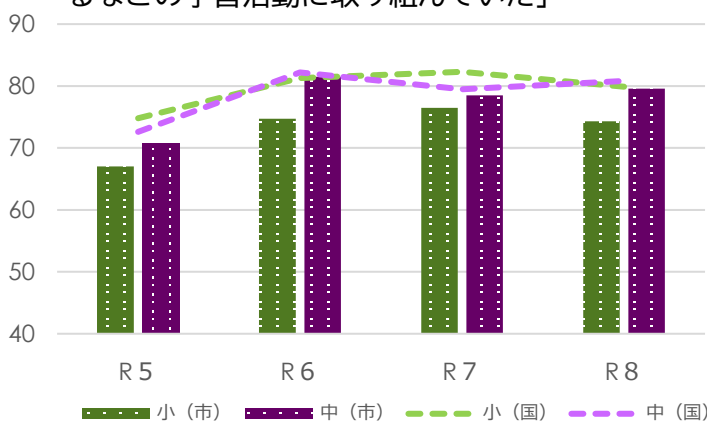
考察

- ・授業の中で、児童生徒が工夫して発表したり、課題解決に向けて自分で考え取り組んだりする場面が設けられていることが考えられる。
- ・小中学校ともに「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができる」に肯定的な回答をした児童生徒が8割以上いることから、授業の場面において、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づけるような活動を意識した取組が行われていると考えられる。

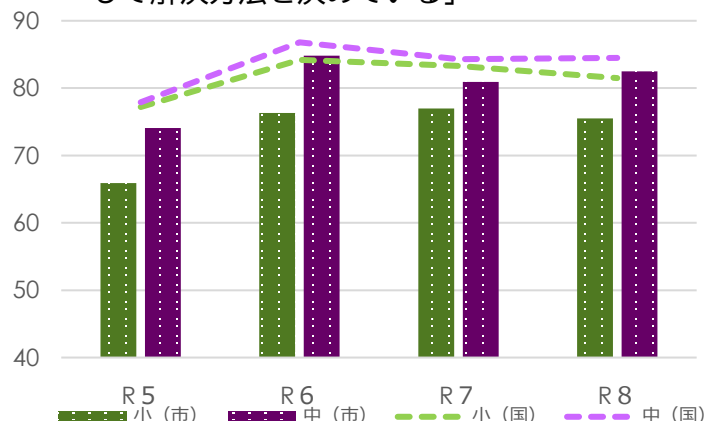
総合的な学習・学級活動について

<ふじさわビジョン
「状況の知」「かかわりの知」>

質問「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいた」



質問「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」



特徴

- ・総合的な学習の時間、学級活動に関する質問においては、いずれも小学校6年生より中学校3年生の方が、肯定的な回答をした児童生徒の割合が高い。
- ・いずれも全国値より若干低い傾向にある。

考察

- ・現行の学習指導要領で求められる学びを踏まえ、対話的な学習活動や児童生徒の考えを発表する場面を意識した取組等、各学校において、身につけたことを課題解決に生かすことができる機会を設けられていることが考えられる。
- ・学校全体の取組に達していないことも考えられる。

7 今後へ向けて

学校・教育委員会の取組

学校教育ふじさわビジョンの理念に基づき、子どもたちの3つの知を育み、魅力ある学校づくりをすすめます。

(1) 「主体的・対話的で深い学び」が展開されるような授業の実践へ向けた取組を進めます。

- ・校内研究や学校訪問などを通して、教員の授業力、学級経営力の向上に努めます。
- ・児童生徒自らが問いをもち、課題解決に向けた主体的・対話的な学習活動を通して、読解力、表現力、思考力等の育成に努めます。

(2) 自己肯定感・自己有用感が高まる取組を進めます。

- ・友達や地域の方など様々な人とかかわる活動を通して子ども達の自己肯定感、自己有用感が高まる取組を推進します。

(3) 総合的な学習の時間、学級活動等において、児童生徒自らが当事者として課題の解決に向けて対話し深める取組を進めます。

- ・教員向け研修や学校訪問などを通して、児童生徒が課題や問いをもち、対話を通して深めたり、解決したりする好事例等の周知、啓発に努めます。

保護者のみなさまへ

(1) 子どもたちの健やかな日常生活について考えましょう。

- ・今回の調査において、児童生徒のSNS等の利用時間が増加していることが分かりました。特に学習以外の動画視聴など、受動的な使い方においては、長時間化による健康・学習等への影響が心配されます。日常生活を充実させることが、自己肯定感を高め、スマートフォン等の適切な利用にもつながると考えられます。ご家庭でのお子様の過ごし方について、今一度見直してみましょう。

(2) 自己肯定感、自己有用感を高めるはたらきかけを大人からもしていきましょう。

- ・子ども達へのちょっとした声かけが、大きな力になることがあります。家庭、地域から様々な場面を通して自己肯定感、自己有用感を高めるはたらきかけをしていきましょう。
- ・地域の力になりたいと思っている子ども達が多くいます。子ども達が実際に地域とつながることが、社会参画の第一歩となります。地域と顔が見える関係を構築していきましょう。